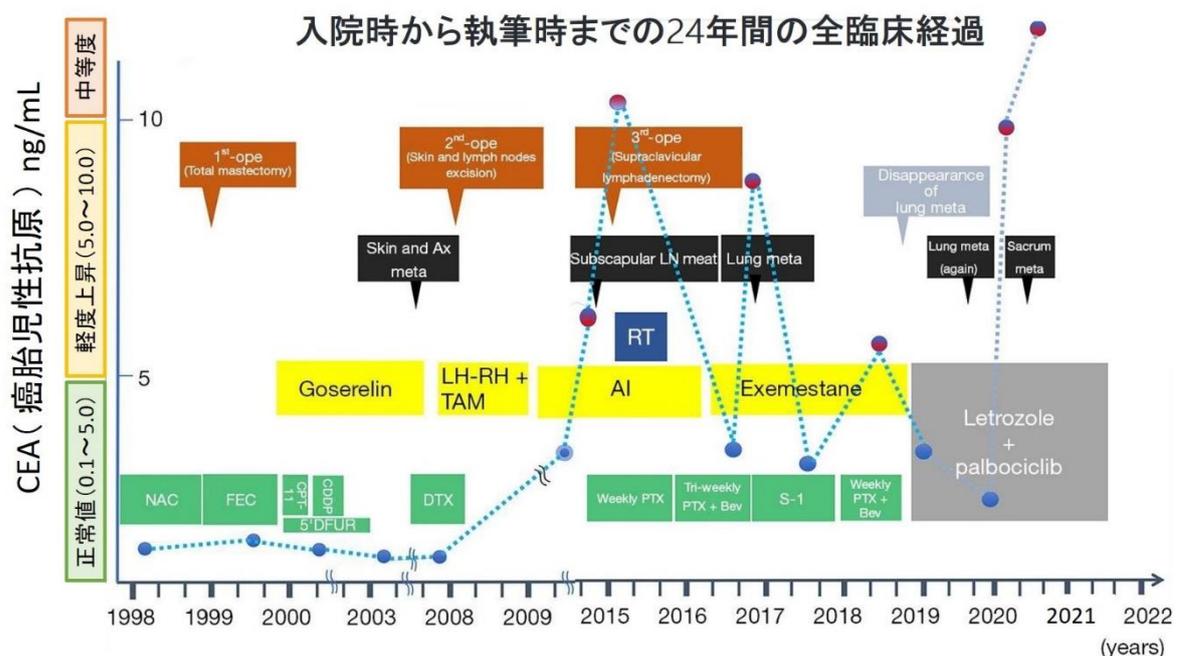


症例報告と治療方針に関する考察：術後24年経過した進行乳がん（ステージIIIB）患者の一例

- **ポイント**
 ホルモン受容体陽性（HR+）^{*1}、ヒト上皮成長因子受容体陰性（HER2-）^{*2}の乳がん（ステージIIIB^{*3}）の患者に対し、最初の治療として大胸筋を含む腫瘍の完全切除を行ったことにより、結果として十分な局所制御が可能となり、24年もの長期生存が達成できました。
- **概要**
 HR+ HER2-乳がんに対する現在の一般的な治療ガイドラインでは、化学療法の開始をできるだけ遅らせ、QOLを重視した治療方針となることが多いですが、そうした治療を行っても10年生存率は10%程度に過ぎません。本症例では、むしろ、完全治癒を目指す治療戦略に基づいて最初に大規模な外科的治療を行い、さらに積極的な治療を継続した結果、24年という長期の生存につながったことが示唆されました。
- **研究の背景**
 近年、HR+ HER2-の進行・再発乳がんに対して、新規メカニズムを有する薬剤が多数開発されています。しかしながら、HR+ HER2-再発乳がんの予後は依然として悪く、全生存期間は非常に短く、治療を行っても完全治癒は困難なのが実情です。
- **研究の成果**
 1998年の初診時にステージIIIBのHR+ HER2-進行乳癌と診断されましたが、当時可能であった様々な治療を経て、初回手術から24年経過し、再発・寛解を繰り返しながらも元気に長期生存している症例を報告しました（Figure 5、一部改変）。



作成日：2023年7月1日

改定日：

- 今後の展望

新しいメカニズムを持つ薬剤が開発され、患者体内の免疫応答システムを調べることができるようになった今、完治を目指す治療法を選択できるようになることが期待されます。

転移・再発乳がんの長期生存者における治療効果予測のためのバイオマーカー探索や遺伝子パネル解析、T細胞やその他の免疫関連細胞が発現する個々の免疫応答状態の解析など、総合的なアプローチを検討したいと考えています。

- 用語説明

- (1) ホルモン受容体 陽性 (HR+)

乳がんのタイプを判断するのに使われる項目の1つです。女性ホルモン(エストロゲン)に反応して増殖する特徴を持つがんであることを意味します。乳がん全体の約7割がHR+とされています。

- (2) ヒト上皮成長因子受容体 陰性 (HER2-)

乳がんのタイプを判断するのに使われる項目の1つです。細胞の増殖に関係するタンパク質で、この項目が陽性である場合には、このタンパク質に特異的に結合して機能を阻害する薬剤(ハーセプチン等)が使用されます。

- (3) 乳がん (ステージIIIB)

がんの大きさやリンパ節への転移の有無に関わらず、しこりが胸壁に固定されていたり、皮膚にむくみや腫瘍、目に見えるこぶがある状態。また、しこりのない炎症性乳がんもこのステージに含まれます。

※なお、がんの種類によってステージの定義は変わります。

- 論文情報

タイトル A patient with stage IIIB advanced breast cancer who is still alive 24 years after surgery: a case report and remarks on the treatment strategies

著者 Toshihiko Yoneto, Kenichiro Hasumi, Yuzo Fujii, Nobukazu Takahashi, Natsuki Seki, Takayuki Yoshimoto, and Yasutaka Takeda

掲載誌 Translational Cancer Research 誌 2022 Oct; 11(10): 3903–3911.

URL <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC9641138/pdf/tcr-11-10-3903.pdf>

以上